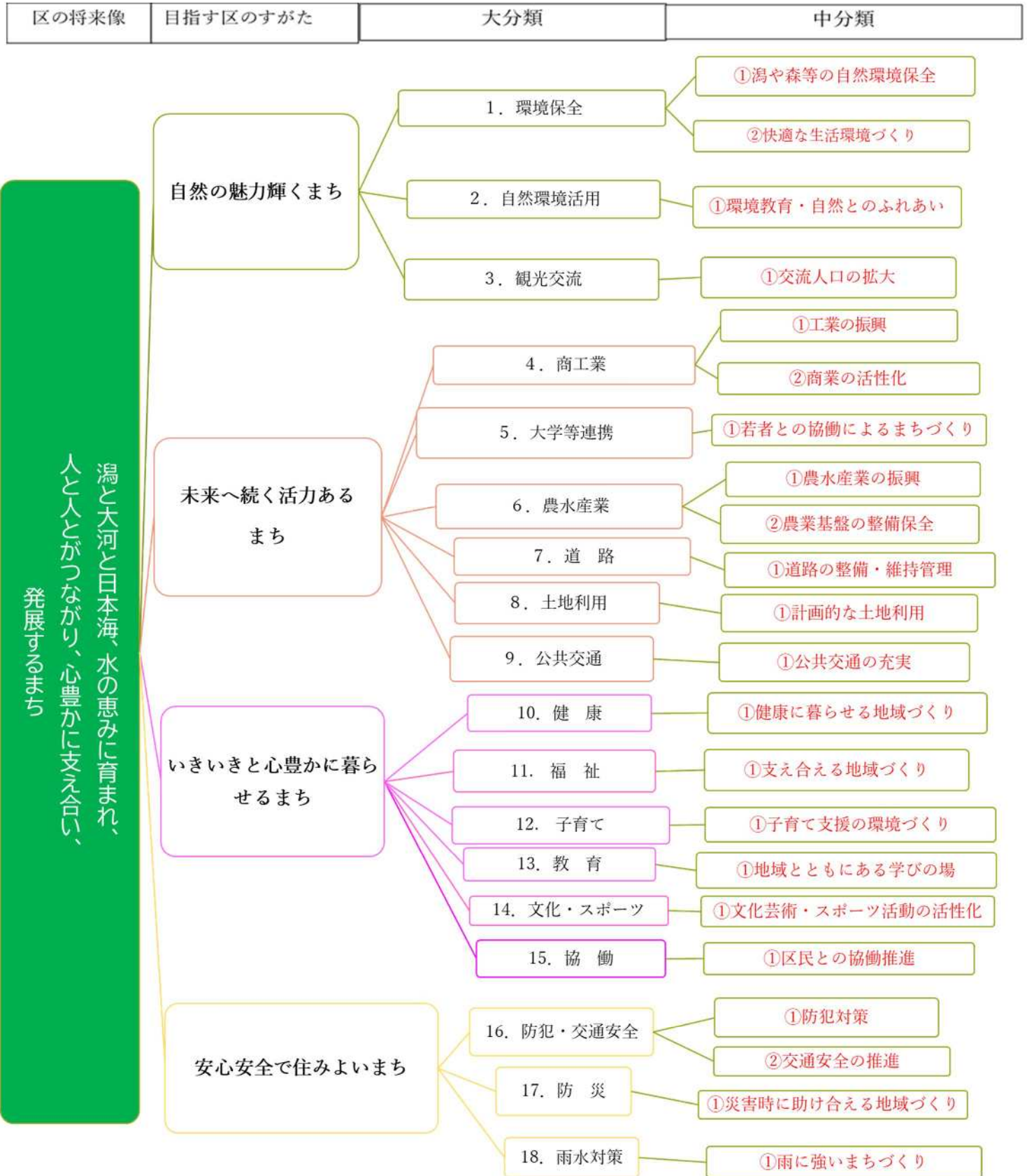


第2章 北区 区ビジョンまちづくり計画体系図



第3章 現状・課題 / まちづくりの方針

I 自然の魅力輝くまち



関連する SDGs



1. 環境保全

(1) 現状・課題

○ 北区は、福島潟をはじめ阿賀野川、日本海に面した「海辺の森」、雄大な田園風景など、豊かな自然に恵まれています。これら市民の憩いの場となっている魅力ある自然環境を将来に残していくことが重要です。

○ 自然環境の保全には、自然保護活動を積極的に行っている団体の支援や育成が重要です。また、区民の環境保全意識を高めるとともに、地域の保全活動を継続するための体制づくりも求められます。

○ 福島潟、十二潟やひょうたん池には、希少な動植物が生息・生育しています。希少種の保護や外来種の駆除などが求められます。

○ 阿賀野川の河川敷には、スポーツ施設などが整備され、憩いの場となっています。

○ 新井郷川や福島潟放水路などの水辺の環境は、地域住民の生活に潤いを与えています。

○ 河川や潟、放水路に沿った地域では、ごみの不法投棄が見られます。このため、意識啓発活動を続けていくことが重要です。

(2) まちづくりの方針

①【潟や森等の自然環境保全】

○ 自然環境の保全のため、市民や隣接する自治体等との連携、協働により環境保全活動の推進に取り組みます。

○ 自然保護に積極的なNPO法人などの団体に、情報提供など必要な支援を行います。

②【快適な生活環境づくり】

- 身近な河川や水路の水質保全を図るため、家庭などからの排水を公共下水道や合併処理浄化槽により適切に処理することで、公共用水域の環境改善を進めていきます。
- ごみの不法投棄が見られる場所では、清掃活動などを実施していきます。多くの人に参加してもらうことで、環境美化への意識向上につなげます。

2. 自然環境活用

(1) 現状・課題

- 北区は、豊かな自然から多くの恵みを受けてきました。特に、福島潟や「海辺の森」などでは、魅力ある自然環境を教育や観光に活用しています。
- 福島潟、十二潟やひょうたん池などでは、地元の小・中学生が環境学習に取り組んでいます。このような活動が継続していく体制づくりが重要です。

(2) まちづくりの方針


①【環境教育・自然とのふれあい】

- 環境教育や自然体験の場、地域づくりの場、ふれあいと憩いの場として、自然環境を活用します。
- 環境教育に関わるNPO法人などの団体に必要な支援を行います。

3. 観光交流

(1) 現状・課題

- 福島潟は、新潟の原風景を今に残し、独自の自然環境や食文化などの魅力があります。
- 「海辺の森」周辺では、キャンプ場や遊歩道が整備され、自然を楽しむ空間として利用されているほか、海岸線では島見浜海水浴場など夏季の人気レジャースポットとして、市内外からの観光客やファミリー層に利用され、賑わっています。
- 福島潟をはじめ、美しい自然景勝地や歴史スポットが観光資源として多数存在します。
- 地域の魅力や特徴を活かした観光振興を図る上では、宿泊施設の拡充や交通機関のアクセス向上が重要です。



(2) まちづくりの方針

① 【交流人口の拡大】

- 自然環境の魅力を発信し、交流人口の拡大を図ります。
- 訪れた人が北区の観光を満喫できるよう、自然環境など観光資源の充実に努めます。
- 魅力発信に携わる人材を育成し、さらなる観光振興を目指します。

Ⅱ 未来へ続く活力あるまち



関連する SDGs



4. 商工業

(1) 現状・課題

- 国際拠点港湾・総合的拠点港である新潟東港は、東アジア諸国を結ぶコンテナ航路があり、国際貿易港として機能整備が進められています。
- 本州日本海側最大のコンテナ貨物取扱量を誇る国際物流拠点として、その取扱量は順調に伸びています。新潟空港に隣接し、国道7号(新新バイパス)や高速道路などの交通網も整備されていることから、産業立地には優位な環境にあります。地域産業の活性化や雇用の拡大へつなげるため、この恵まれた立地環境を活かし、企業誘致を進めることが重要です。
- 国内外の著しい変化などに対応しながら、国際物流拠点である新潟東港を活かした地域経済の活性化が求められます。
- 新潟東港は物流機能だけでなく、クルーズ客船の寄港などを通して観光振興につなげていくことが重要です。
- 区内には多くの工業団地があり、製造業や物流関連企業が集積しています。
- 国内外の企業間競争が厳しくなる中、国際的にも通用する新技術の開発や、労働生産性の向上が必要となっています。
- 商店街は、郊外型大型店の進出などの影響や後継者不足により衰退が進み、空き店舗が増えています。商店街それぞれが持つ魅力を高め、広く発信するとともに、集客力を高める工夫が重要です。
- 商店街の魅力を創出し、活性化を推進していくために、人材の育成が重要です。
- 葛塚と松浜には伝統ある露店市が開かれ、多くの買い物客で賑わってききましたが、近年、出店者の高齢化に伴い店舗数の減少が進んでおり、新規参入を促進することが重要となっています。

(2) まちづくりの方針

① 【工業の振興】

- 原料の輸入や製品の輸出など、新潟東港の活用促進に努めます。

○ 企業誘致を促進するため、製造や物流関連産業などの工場や物流施設の建設等を支援します。

○ 中小企業者の生産性向上、脱炭素化に向けて取り組みます。

○ 関係団体と連携し、デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進による新事業に取り組みます。

②【商業の活性化】

○ 商店街が一体となって行う取り組みや賑わい創出、人材育成を支援します。

○ 商業、農業、観光、大学等各分野の関係機関と連携し、地域の賑わい創出を支援します。

○ 民間団体の活動を促進し、まちの活性化を図ります。

○ 葛塚市・松浜市の連携事業や地域が行う活性化イベントの取り組みを支援し、新規参入店舗の促進を図り、来訪客の増加に取り組みます。

5. 大学等連携

(1) 現状・課題

○ 北区は2つの大学が立地し、若者が多いまちとなっています。この若い力を活かし、「住み続けたいくなるまちづくり」を望む声が多くあります。

○ 平成22年より新潟医療福祉大学と包括連携協定を結び、以降連携事業を行っています。

○ この活動を拡充するため、区内で活動している団体等との連携を深めることが重要です。

(2) まちづくりの方針

①【若者との協働によるまちづくり】

○ 大学、区内で活動している団体、民間企業等と連携し、若い力や各分野の専門的知見を持ちより、地域課題解決や「住み続けたいくなるまちづくり」に取り組みます。

6. 農水産業

(1) 現状・課題

○ 米を中心に野菜、花きなど、多種多様な農畜産物の生産や漁業が行われ、中でもトマトとなすは、県下一の出荷量を誇っています。その一方で農業者の高齢化や担い手不足により、生産者数や生産量が減少しており、農業者への所得安定や、農業経営の担い手確保が重要な課題となっています。

- 農地、とりわけ水田の多くは低湿地にあり、降雨時の排水をポンプに依存しているため、継続的に施設保全を行うことが重要です。
- 水田や畑などの農地は、貯水・遊水機能とともに、水資源かん養や水質浄化機能も果たしています。果樹園は、花が咲く季節には、かけがえのない美しい景観を形成しています。こうした環境の維持、保全を続けていくことが重要です。

(2) まちづくりの方針

①【農水産業の振興】

- 生産コスト低減、農水産物の高品質化と付加価値向上を図り、「儲かる」農水産業を推進します。
- 農地の集積・集約化による農作業の効率化を図るとともに、意欲ある新たな就農希望者への支援・育成を推進し、農業経営の担い手確保に努めます。

②【農業基盤の整備保全】

- 「儲かる」農水産業の実現に向け、生産性の向上を図るために、農道や水路などの整備保全を行います。

7. 道路

(1) 現状・課題

- 国道7号(新新バイパス)、国道113号、日本海東北自動車道などの東西に貫く幹線道路が充実し、新潟市中心部方面と新発田市方面への接続には高い利便性があります。
- 今後は、各区へつながる新潟中央環状道路や、区内の拠点を結ぶ南北の道路のさらなる整備が重要となります。
- 老朽化による道路等の維持管理費の増加が見込まれています。日常の生活環境を維持するため、継続的に維持管理を行い、生活道路網を確保していくことが求められます。

(2) まちづくりの方針

①【道路の整備・維持管理】

- 区内外の拠点を結ぶ、利便性の高い道路の整備を行います。
- 日常の生活環境を維持するため、道路などの維持管理を継続的に行います。

8. 土地利用

(1) 現状・課題

○ 水田や畑などの農地が、区内全域に広がっています。新潟東港、新崎・濁川地区などには工業団地があり、松浜・濁川・新崎・早通・木崎・葛塚地区には、市街化区域が散在しており、住宅地に利用されています。

○ 区全体のまちづくりに向け、今後都市機能の拠点となる地区の計画的な土地利用が望まれます。

(2) まちづくりの方針

①【計画的な土地利用】

○ 既存市街地やその周辺、物流や教育などの機能を有する地区において、計画的な土地利用を進めていきます。

9. 公共交通

(1) 現状・課題

○ 東西方向にJR白新線、路線バス(一部住民バス区間)が運行され、新潟市中心部と区内の主要な地域が結ばれています。南北方向には、区が運営主体である「区バス」、地域住民が運営主体である「住民バス」が運行され、それぞれJR新崎駅、豊栄駅に結節しています。

○ 区内には、公共交通の利用しにくい地域があるほか、高齢化が今後さらに進むことなどから、日常の移動手段である生活交通の検討が引き続き重要です。

(2) まちづくりの方針

①【公共交通の充実】

○ 区バス・住民バスについて、運行内容などを継続的に見直し、生活交通としての利便性の向上に努めるとともに、持続可能な公共交通の実現を目指し取り組みます。

○ 社会実験を通して、地域に即した公共交通になるよう取り組みます。

○ 公共交通が利用しにくい地域の声を聴きながら、地域とともに日常の移動手段となる生活交通について検討していきます。

Ⅲ いきいきと心豊かに暮らせるまち



関連する SDGs



10. 健康

(1) 現状・課題

- 本市は全国に比べ脳血管疾患による死亡率が高く、中でも北区では脳内出血の死亡率が群を抜いて高くなっています。脳内出血を引き起こす要因には「高血圧」「喫煙」「飲酒」などがありますが、健診結果をみると、血圧の高い人の割合が市内で一番多く、運動や食事といった生活習慣の改善と定期的な健診による予防が必要です。
- 北区では高齢化が新潟市全体を上回るスピードで進行しています。誰もが住み慣れた場所で安心して暮らすため、地域ぐるみで認知症や介護を予防する取り組みを進める必要があります。

(2) まちづくりの方針

① 【健康に暮らせる地域づくり】

- 一人一人が自身の健康状態を把握し、病気の早期発見・治療に結びつけられるよう、特定健診や各種検診の受診率向上に取り組めます。
- 認知症の予防や早期発見を図るため、関係機関と連携し周知・啓発に取り組めます。
- 保健師、栄養士による個別相談会や講習会を通じ、健診結果の数値改善や、食生活の改善などにつなげます。
- 健康づくりのための運動の継続を支援する講座の開催に加え、運動普及推進委員やフレイルサポーターなど地域で活動するボランティアと連携し、地域の茶の間や老人クラブで出前講座を実施し、地域ぐるみで健康寿命の延伸に取り組めるよう支援します。

11. 福祉

(1) 現状・課題

○ 高齢化や少子化の進行に加え、地域や個人が抱える課題は多岐にわたり、より複雑化しています。誰もが住み慣れた場所で安心して暮らすため、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と社会が分野を超えてつながり、一人一人の暮らしと生きがい、地域をともに作り、誰もが役割を持って活躍できる「**地域共生社会**」の実現が求められています。

○ 介護予防や医療、生活支援において多様化するニーズに対し、様々なサービスや地域活動を組み合わせて総合的に対応できる仕組みづくりが求められています。

○ 障がいのある人の高齢化も進んでおり、住み慣れた地域や家庭で快適に生活できるよう、本人・家族への地域における支援体制や多様化するニーズに対応したサービスの充実が必要となっています。

(2) まちづくりの方針

① 【支え合える地域づくり】

○ 「**支え合いの仕組みづくり会議**」や在宅医療と介護の支え合いネットワーク「**ござれやネット**」などの関係機関と連携し、住まい・医療・介護・予防・生活支援を一体的に提供する「**地域包括ケアシステム**」の構築をさらに進めます。

○ 日常圏域ごとに「支え合いのしくみづくり推進員」を配置し、地域の茶の間の充実と新たな立ち上げの支援に取り組みます。

○ 住民が主体となった生活支援の取り組みや、地域の居場所づくりを支援します。

○ 障がい者福祉施設や関係団体と連携し、商品の販路拡大や認知度の向上を図ります。

12. 子育て

(1) 現状・課題

○ 少子高齢化や共働き家庭の増加などにより、子育て環境は大きく変化しており、育児の悩みや心配ごとを相談できる人が身近にいないという世帯が増えています。

○ 子育て世帯の孤立を防ぐため、区の妊娠・子育てほっとステーションでの総合相談に加え、子育てネットワークの構築など子育てを支え合う仕組みづくりが必要です。

○ 全ての子どもが豊かな子ども期を過ごすことができるまちを実現するため、関係者が連携・協力するとともに、子どもを地域全体で見守り、働きかけることが求められています。

(2) まちづくりの方針

①【子育て支援の環境づくり】

- 妊娠・子育てほっとステーションで、保健師や保育コンシェルジュ、子ども家庭相談員などの専門職が妊娠期から育児期にわたりその時期に応じた相談にワンストップで応じ、関係機関と連携しながら子育てを支援します。
- 子育て支援センターや児童館などで子育て支援講座を実施するほか、子育て世帯の交流会を通じ、ネットワークづくりを支援します。
- 既存の児童館を拠点に各地域で出張児童館を展開するほか、子どもがすこやかに心豊かに過ごせる地域の居場所づくりの取り組みを支援します。

13. 教育

(1) 現状・課題

- 一人一人の子どもの学びと成長を支える学習環境の支援と活力あるまちづくりに向けて、学校と地域が一体となった教育活動の仕組みづくりが重要です。
- 社会環境が急速に変化するなか、地域や社会の課題に向き合う学びの場を充実させ、解決に向けて人々がつながることで、人権や多様性を尊重し、安心して暮らせる地域づくりが求められています。

(2) まちづくりの方針

①【地域とともにある学びの場】

- 学校と地域が共通の目標をもって、支え合い、ともに成長し、活性化しながら、学校と社会教育施設、家庭、地域をつなぐネットワークづくりをさらに進め、子どもの豊かな成長を支える協働事業を推進します。
- 小・中学校における教育の実態や課題など、地域と情報を共有しながら教育環境の整備を行います。
- 大学などと連携し、区内の小・中・高等学校における児童・生徒の学習支援や特別活動等に対する支援を行い、学力・運動能力の向上を図ります。
- 地域課題や多様なニーズに応じた学習機会を充実させ、学びを通して課題解決に取り組むことで、地域の絆づくりを支援します。

14. 文化・スポーツ

(1) 現状・課題

○ 伝統や文化を伝える人や機会の減少等により、地域への誇りや愛着を持てる環境が失われつつあります。活力あふれるまちづくりを進めるため、区民が郷土の歴史・文化・芸術に触れ、豊かな心を醸成し、生きがいや誇り、愛着を育む環境づくりが重要です。

○ 気軽に生涯スポーツに親しめるような取り組みと、人と人をつなぐ、スポーツ・レクリエーション活動を促進しています。

(2) まちづくりの方針

①【文化芸術・スポーツ活動の活性化】

○ 区民が郷土の歩みを学ぶ機会や、文化芸術に親しむ機会を創出するとともに、地域の歴史・文化・芸術活動を担う人材を育成します。

○ 区民が主体となる文化・芸術活動への支援を通じ、交流人口の拡大や地域の活性化を図ります。

○ 各スポーツ団体や総合型地域スポーツクラブの活動を支援し、区民が気軽にスポーツ活動に参加できる機会の充実を図ります。

15. 協働

(1) 現状・課題

○ 都市化の進展などによるコミュニティ意識の希薄化や人口減少・少子高齢化の進行に伴い、地域活動の担い手不足が問題になっており、これからのまちづくりを支える人材の育成が求められています。

○ 区民のニーズや地域課題が多様化・複雑化しており、区民のニーズを的確にとらえたまちづくりや地域課題解決を推進するために、より一層の情報共有や意見交換が重要です。

(2) まちづくりの方針

①【区民との協働推進】

○ 区自治協議会や地域コミュニティ協議会などの活動の支援や周知、研修等の学習機会の提供を通して、人材の育成に取り組みます。

○ 幅広い世代が共同で参画し、地域活動に関わることができるような仕組みづくりを検討します。

○ 多様化、複雑化する区民ニーズや地域課題に対応するため、コミュニティ活動や区自治協議会等での意見交換が活発に行われるよう取り組みます。

IV 安心安全で住みよいまち



関連する SDGs



16. 防犯・交通安全

(1) 現状・課題

○区民が安心して暮らしていくため、犯罪が発生しにくいまちづくりへの取り組みが求められています。

○自治会や地域には、防犯活動を行う団体が組織されていますが、活動人員の高齢化や後継者不足が問題となっています。

○交通事故は、年々減少傾向にあるものの、高齢者が関わる交通事故は毎年高い割合を占めています。高齢者を対象とした、交通安全への取り組みが重要です。

(2) まちづくりの方針

①【防犯対策】

○犯罪を未然に防ぐため、防犯設備の整備支援や、地域等と連携したパトロールなどの防犯活動を継続して行います。

○防犯活動を持続的に行うため、地域コミュニティ協議会や自治会、小学校の見守り隊などの防犯活動団体がお互いに連携協力していく仕組みづくりを検討していきます。

②【交通安全の推進】

○交通事故を防ぐため、地域と警察、関係団体と連携し、交通安全に関する啓発活動を行い、意識の向上に努めます。

○交通事故防止に向けて、自治会、町内会とともに高齢者を対象とした交通安全教室を実施します。

17. 防災

(1) 現状、特性と課題

○気候変動により災害の激甚化、頻発化が進んでいます。日頃より地域の災害リスクを把握し、避難行動を検討するなど、各自で災害に備えることが重要です。

○ 避難行動要支援者への支援や避難所運営などを行うにあたり、地域全体で助け合う意識の啓発が求められます。

(2) まちづくりの方針

① 【災害時に助け合える地域づくり】

- 一人一人が判断して行動できるように自助意識の啓発に努めます。
- 避難行動要支援者を把握し、地域で助け合う仕組みづくりを支援します。
- 防災士が地域に積極的に関わられるよう支援します。
- 避難所運営を担う組織体制を支援します。

18. 雨水対策

(1) 現状、特性と課題

- 近年の都市化の進展や局所的な豪雨により、市街地の浸水被害が多く発生しています。
- 雨水対策施設の整備や治水対策の強化が重要です。

(2) まちづくりの方針

① 【雨に強いまちづくり】

- 雨水対策施設は、過去の浸水被害状況や現在の整備水準などにより、優先度の高い地区から整備を進めます。
- 新潟県の事業である福島潟流域治水対策河川事業、国営付帯県営かんがい排水事業と併せて行う農地防災排水事業（阿賀野川右岸地区事業）を推進し、市街地と農地の浸水対策を講じます。